

触って感じて！ 姫路城

視覚障害者のための
現地「見学」

6月9日、視覚障害者を対象とした姫路城現地見学会が行われた。企画したのは朗読ボランティア・サークル「さえずり」である。城郭研究室でも現地見学会を毎年行っているが、障害者を対象とした見学会の経験は皆無である。「姫路城に行きたいが、身体に障害があるから...」という思いの人も少なくないはずである。そういう人への便宜をどうはかるのか、今後の参考とするため、この見学会に同行した。



大柱の太さで天守の大きさを実感する参加者



「姫路城を攻める！」をテーマに見学会が始まる。講師は文化課の山本氏。ユーモアを交えた説明で参加者を和ませ、緊張を緩める。生憎の雨模様のため、参加者の片手が完全に塞がってしまったのは残念。

城山の正面にあたる菱の門で、姫路城の城門に触れてみる。木の厚さ、鉄板の使われ方、門の太さなどを早速体感。

このあと、城山に登るにつれて雨があがる。

「お菊井戸」では石を投げ入れて水中に落ちる音から深さを調べようとした。しかし、清掃が行き届いているせいか手ごろな石塊が無い。石探しも大変だ。



説明については、参加者からもう少し講談調の話が聞きたかったという意見があったという。建造物の構造に関する内容は、視覚の不自由な人たちにはイメージしにくいからかもしれない。それでも全体的には、講師とボランティアとの綿密な事前打ち合わせが奏功し、うまくいったと評価できよう。

この日の悪天候は城内の石段を滑らせ、参加者の恐怖を増させたかもしれない。付添のボランティアが上手にフォローしても、やはり移動に時間はかかる。こうした点については、正直なところこの見学会で経験するまで想像しにくいところであった。これをひとつの参考事例として、さらに試行錯誤が必要になってくるに違いない。

